



うちのイチ押し!

今月号に掲載している講座・イベント・展覧会の詳しい内容を、その事業の担当者が直接PRするコーナーです。

今回ご紹介するのはゆとりとみどり振興局文化振興担当の「パラモデルといっしょにプラレールで遊ぼう」です。



咲くやこの花コレクション Vol.3

パラモデルといっしょに プラレールで遊ぼう

平成20年度「咲くやこの花賞」美術部門の受賞者で、国内外で高い評価を受けている「パラモデル」(林泰彦と中野裕介によるアートユニット)による、「プラレール」を使ったワークショップを開催します。



プロフィール

林泰彦(デザイナーを経て、01年 京都市立芸術大学構想設計専攻卒業)と中野裕介(02年 同大学日本画専攻修了)が01年に結成したアートユニット。得意領域や趣向の異なるパラレル[parallel]な二人が、『パラモデル[para-model]: 世界や心の色々な部品から組み立てる、極楽や絶景[paradise] - パラドックス[paradox]の詩的な模型/設計図』というコンセプトを核に共存し、互いの視差[parallax]と関係性を生かし、多様な形式で作品を制作している。



水都大阪2009
2009年8月22日~10月12日

information

「川と生きる都市・大阪」をテーマに、8/22(土)から10/12(祝)までの52日間、中之島公園・八軒家浜などを主会場として、「水都大阪2009」が開催されます。中之島公園会場では、「水辺の文化座」と題して、こどもから大人までが楽しめる参加型アートプログラムが毎日実施されますので、ぜひご来場ください。 <わくしはホームページ> <http://www.suito-osaka2009.jp/>

パラモデルといっしょにプラレールで遊ぼう

プラレールを使った作品で知られる現代美術作家パラモデルが、参加者と一緒にプラレールで市役所玄関前いっぱい「絵を描いて」いき、最後に電車を走らせます。

パラモデルと参加者のみなさんとの共同作業で描く「絵」は、定点観測カメラで30秒に1枚コマドリ撮影されます。「プラレール」がなくなると、大きく広がって絵ができる様子をアニメーションとして作業終了後にみんなで鑑賞します。

プラレールは、発売から40年以上が経つ人気の鉄道玩具です。40年という年月は、世代を超えて共通の認識をもつことを可能にします。また、プラレールは遊び方を規定せず、自由に工夫して遊べたり、「つながる」「ひろがる」というその独自の形状からくる特徴をもっています。

これらのプラレールのもつ特徴や要素をいかにしながら、パラモデルと参加者のみなさんと、世代を超えた、無限のひろがりをもったイマジネーションを創造してみませんか。

宇宙の植物を描く

今回のワークショップのテーマは「宇宙の植物を描く」です。もしも宇宙で植物が育ったら、どんな姿形に育つのでしょうか?プラレールの青いレールをみなさんのイマジネーションで宇宙までのぼして、市役所玄関前いっぱい「宇宙の植物」を育てましょう。

どんな植物が育つかはみなさん次第です。大きくて生き生きとした、今までみたこともない植物を描きましょう。

日時 9/19(土)~23(祝) 10:30~12:30、14:00~16:00

場所 大阪市役所玄関前(地下鉄・京阪「淀屋橋」)

対象 小学生以上(保護者同伴可) 定員 各15人(多数抽選) 費用 無料

申込 往復ハガキに、住所、名前(ふりがな)、年齢(学校名・学年)、電話番号、参加希望日・時間帯(第3希望まで)を記入のうえ、下記まで送付
〒540-0002 中央区大阪城3-1

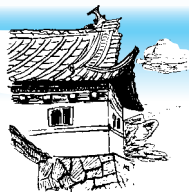
(財)大阪城ホール 文化振興部 パラモデル係

締切 9/7(月)

問合せ 4792-2061(財)大阪城ホール 文化振興部(担当:中川)

協力 株式会社タカラトミー、mori yu gallery 「プラレール」は株式会社タカラトミーの登録商標です。

<わくしは(財)大阪城ホール ホームページ
<http://www.osaka-johall.com/cultural/index.html>



おおさか歴史探訪 ⑦

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

中之島公園の変遷 —埋め立てによってできた新公園—

大阪の政治、文化の中心である中之島の東部地区に、大阪で最も古い都市公園である中之島公園があります。京阪電車の延伸工事もおわり、現在は公園の整備工事が急ピッチですめられています。

ところで、中之島公園の範囲は、現在は天神橋の東側が東端ですが、このうち難波橋から東側が「埋め立て」によってできていたことを、ご存知でしたか。

中之島公園は明治24年に仮公園としてスタートし、同32年に正式な公園となりました。当初は現在の御堂筋から東側一帯が公園の範囲で、池や築山がある一般的な公園だったようです。水辺にあり景色も良かったため、夏には夕涼みの人で賑わったとのこと。その後敷地内に府立図書館や大阪市役所などの建設がきまり、公園としての実態をなさなくなりました。そのため明治44年、公園の拡張計画が決定されます。それまでは中之島の先端は難波橋のあたりまでであり、その範囲が公園だったのですが、埋め立てによって「剣先」を天神橋まで延ばしました。それにより現在と同じ地形となったのですが、その際埋め立てを公園の範囲に組み込んだのです。新しい公園には西洋式の花壇、噴水、音楽堂のほか、テニスコート、200メートルと400メートルのトラックなどがあり、スポーツの普及のための運動公園としてつくられました。明治の前半と末期では、市民が公園によせる期待が異なっていることがわかります。

